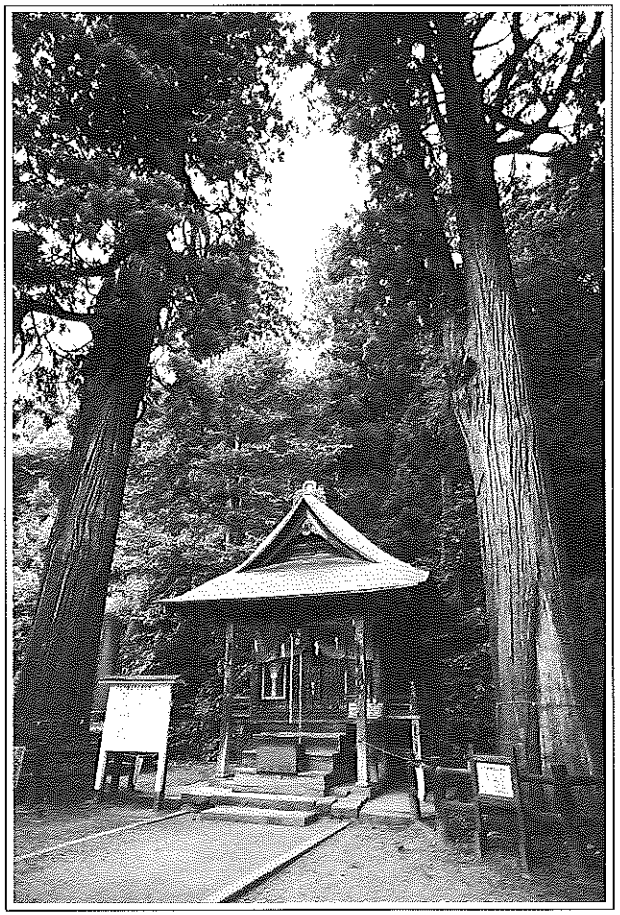

特集　大災害と文明の転換

被災地宗教者の活動と後方支援の輪

稲場圭信（いなば　けいしん）

現地の宗教者による救援活動

東日本大震災、二〇一一年三月一一日、大地震とその後の大津波による未曾有の大災害に即応し、当日に対策本部を立ち上げた教団も多い。そして、現地へ先遣隊を送った。宗教界全体が迅速に安否確認・救援活動へと動いた。

被災地で寺社・教会・宗教施設が一時避難所となり、檀家・氏子・信者やそこに集った人たちは支えあった。

岩手県大槌町にある浄土宗の寺院、大念寺もそのような寺のひとつだ。大念寺は、大槌町の中心部に位置する。この地域はほとんどの家屋が倒壊または火事のため消失した。[1] 大萱生（おおがゆう）修明副住職によると、寺院自体は建物の一部に歪みが生じた程度であったが、檀家のうち約二〇〇人が亡くなった。まだ連絡が取れない檀家もあるため、それ以上の数になることが予想される。そして、檀家のうち八割以上の方が家を失い、仮設住居に住んでいる。

三月一一日の地震発生後三〇分ほどで津波が迫り、寺の山門の下まで津波がきた。大念寺の数十メートル手前にある大槌小学校の子ども四人が寺の方まで流されてきて、大念寺で救出した。

本寺院は指定避難所になっており、日頃から避難訓練

の場所になっていたため、地震発生後すぐに二〇〇人近い地域住人が避難してきた。そのうち三分の一ほどが檀家であった。津波の到達が早かったために、檀家の大多数が来られなかった。「もう一〇分ほど津波が来るのが遅ければ、もっと逃げてこられる人がいたのではないか」と副住職は語った。

津波の後は、すぐ近くで火災が発生した。プロパンガスや灯油製品で爆発が発生した。火災が発生したことで寺院にも避難命令が発令され、裏手の城山を越えて避難することになり、副住職も家族や避難者とともに城山体育館まで移動した。

副住職一家は、体育館へ避難して五日目で寺に戻ることになった。一緒に避難してきた人たちに、「もしよければ寺に避難してください」と声をかけ、二八人が一緒に寺に戻った。寺に戻った時はライフラインが復旧しておらず、炭を用いて火をおこし、暖を取ったり炊き出しをしたりした。二〇〇キログラム近くあった備蓄米を使って炊き出しを行った。

一八日目ぐらいまで、一日一回、城山体育館に食料や水を入手するために通った。ここには給水車の水やおにぎりなどがあった。一八日目ごろに自衛隊が幹線道路の瓦礫を撤去して、道が開通した。それを機に物資が入るようになった。浄土宗青年会やライオンズクラブのメンバーが食料や水をもって救援に駆け付けた。

道路が開通し、遺骨がどんどん運ばれてきた。岩手県では火葬できなかったので、東京など県外で火葬を済ませた遺骨が、あっという間に四〇〇ほど集まった。(2)

本堂奥の部屋に仮安置された遺骨：筆者撮影

岩手県宮古市の〇〇寺(3)は、高台に位置しているため、大きな被害はなかった。地震の当日は、三〇〇人弱が避難してきた。避難してきた住民のほとんどが檀家であった。寺の敷地内は人で溢れ、就寝時も横になれない状態だった。座布団や引き出物のシーツ・毛布などを出してきて布団として使い、夜を過ごした。寺院にあったローソクで火を灯し、だるまストーブ七、八台を夜もつけ続けて暖を取った。食料は十分でなかったので、二日間は二人でひとつのおにぎりを分け合った。一二日には寺院の裏側で火事が発生し、三〇〇人弱いた避難者のうち半分は、避難所となっている高校へ移動した。その後、親戚などの家に移動する人なども出てきて、最終的には、仮設住宅の完成まで八〇人程で過ごした。

宮古湾近くの高台に位置する善林寺(真宗大谷派)には、(4)三月一一日の当日は三〇人程度が避難してきた。当初は、数日後には自治体等から何らかの支援が得られるのではないかと思っていたが、物資はなかなか届かなかった。食料はぎりぎりの蓄えであった。四〇キログラムほどあったお米を大きな釜で炊いて、おにぎりを作って避難者に提供した。

物資が来ず、食料は減っていく一方で、副住職夫人は食料不足の危機を感じていた。そのような中、近くの水産加工会社から冷凍庫の中の冷凍魚などの提供をうけたり、青森から支援があったり、京都にいた副住職が新潟周りで物資を積んできてくれた。また、本山である京都の東本願寺からは、仙台の教務所に設置された現地復興支援センターを通じて、被災後二、三日のうちに救援物資が届けられた。物資の他にも、被災した門徒に届ける本尊や仏具などが届けられ、物資とともに門徒に届けた。この点は、被災後も日常生活の中で念仏する・参拝する場と時間を持ってほしいという願いが形になった支援として、特に意義が深いものだった。

三月二〇日ごろ、避難所になっているところには物資が届くということを聞き、県に連絡して救援をしてもらうように依頼したが、実際に物資が届くようになったのは四月に入ってからだった。四月一二、一三日頃になって、自衛隊の活動によって道路がつながり、スーパーに